

心のわだかまりがある。「今度来た時には 邸の下を掘って下さい」という県知事の慰めの言葉さえ 私の胸には 鋭い錐のように突きさった。

しかし そうした切なさや心のわだかまりを癒やしてくれるものがまったくなかったわけではない。それはンデレの人々の優しい心づかいとバミンギ川の岸で発見した放射能異常 そして 深く不規則にえぐられた岩山とチャド平原の大サバンナとが織りなすみごとな天然の美であった。

ンデレから北端の町ピラオへ移動し 現在この国でも つとも期待されているンガデ銅鉱床の概査を行なうこと

はこの調査旅行の目的の一つであった。そして、自動車の修理が完了するまで これを予定通りに実行するか割愛するかで頭を悩ました。その結果 予定移動日に既に11日も過ぎていて ピラオでガソリンを購入することがきわめて困難であること ピラオまで400kmの道中で自動車が再び故障する可能性があることなどの理由で この計画の実行を断念することに決定した。

ンデレ最後の夜 鶏の丸焼をはじめ数々の手料理を作って来てくれたお嬢さんもあり 名残りを惜しんで訪ずれる人たちが 宿舎は遅くまでにぎわい 眠りについた時には 既に2時を過ぎていた。

(筆者は 鉱床部)

地 学 と 切 手



コンゴの鉱物切手

P. Q.

1970年3月20日に発行された コンゴ人民共和国(ブラザビル)の多色刷航空切手2種である。他のひとつのコンゴ(キンシャサ)は旧ベルギー植民地であり 最近ではザイルと改名した。こちらのコンゴ(ブラザビル)は旧仏領であり 1958年に自治共和国となったが外交はフランスに委ねられていた。しかし 1960年にはフランス共同体内の独立国となった。コンゴ川の西岸に位置し 34万2千km<sup>2</sup>の面積に約100万人が住んでいるが 国土の半分は熱帯林によって覆われている。コンゴには 15世紀末にポルトガル人がやって来たのが端初であるが フランス領となったのは1880年にフランスの海軍士官ブラザがやって来 ベルギーとコンゴ河の兩岸をめぐって領土獲得競争をしたことによる。首都ブラザビルの名は彼に由来している。

この国の鉱産物として1969年の統計は以下の通り。

カリ	205,000トン	
原油	24,215トン	
鉛亜鉛鉱	2,273トン	
銅 鉱	31トン	「仏語圏」アフリカ・マ
金	122トン	「ダガスカル年鑑」71年版

カリ カリ鉱はこの国最大の鉱産物であり 世界でも有数の埋蔵鉱量を保有している。鉱床は二畳系の岩塩層であり 採掘にあたっている コンゴ・カリ会社は この国第1の近代設備を有している。

石油 内陸地域にあって 先細り傾向を示していた原油は 1969年に海岸沖合 20km 水深60m のところに「海のエメラルド」と名付けた油層を発見したことにより 希望がもてるようになった。1972年には年産200万トンの見通しが得られ 年産500万トンまでの開発計画が立てられている。

鉛・亜鉛 ブラザビル西方120kmのムパサに 鉛・亜鉛鉱床があり 1959年以来開発されているが 1969年には人員の一部を整理した。その後設備を近代化し 低品位鉱も開発可能な体制にし 年産87,000トンを目指している。

Aurichalcite 100F 緑亜鉛鉱  $(Zn Cu)_6(OH)_6(CO)_2$  斜方晶系 硬度1~2 比重3.64 淡緑~緑青~天青色。透明 銅・亜鉛鉱床の酸化帯で二次的に産出

Dioptase 150F 翠銅鉱  $Cu_6Si_6 \cdot 6H_2O$  三方晶系 硬度5 比重3.5 透明~半透明 乾燥地域の銅鉱床の酸化帯に産出